

教育民生委員会 会議録

日 時 令和8年6月26日（金曜日） 午前9時56分～午前12時37分
場 所 白杵庁舎2階 第3委員会室

出席委員の氏名

委員長 安東 鉄男 副委員長 平川 幸司 委員 宗 和義
委員 甲斐 尊 委員 梅田 徳男 委員 戸匹 映二

欠席委員の氏名

（ な し ）

説明のため出席した者の職氏名

政策監 （市民・福祉保健担当）	大戸 敏雄	教育委員会教育次長	佐藤 忠久
市民課長	後藤 秀隆	税務課長	安藤 隆文
環境課長	齋藤 正雄	部落差別解消推進・ 人権啓発課長	寺本 政浩
保険健康課長	川辺みさご	高齢者支援課長	衛藤 和子
こども子育て課長	麻生 幸誠	福祉課長	二宮 貴司
教育総務課長	田中 寛美	学校教育課長	安東 憲雄
学校教育課参事	高田 教一	社会教育課長	那賀 啓史
文化・文化財課長	広瀬 隆	その他関係課長代理	

出席した事務局職員の職氏名

書記 工藤 真里子

傍聴者

（ な し ）

協議事項

1. 所管課 自己紹介・事務分掌（主要事業等）の説明
2. 教育民生委員会の取組について
3. 政策テーマの選定について

3. 閉会中の継続調査の申し出について

4. その他

午前9時56分 開議

○委員長（安東鉄男）

おはようございます。ただいまから教育民生委員会を開催いたします。今回、付託議案はありません。今回は改選後新しく委員が選任されて、最初の委員会となります。

教育民生委員会の所管部署から、課長代理以上の職員の紹介と、各課、事務分掌の説明を受けたいと思います。なお、説明の後に質疑を受けますが、部署も多く、12部署ございます。大体3分で回しても40分ぐらいかかりますので細かな事業内容等の質疑は遠慮いただきたいと思います。

それでは、お手元の次第に沿って進めたいと思います。まず、市民部門からお願いいたします。市民、福祉保健担当の大戸政策監お願いいたします。

◎政策監（大口敏雄）

皆さんおはようございます。市民部門、福祉保健部門担当政策監の大口と申します。どうぞよろしくお願いいたします。私のほうの担当であります、まずは市民部門でございますが、市民課、税務課、環境課、部落差別解消推進・人権啓発課の4課でございます。このあと福祉保健部門の4課、保険健康課、高齢者支援課、こども子育て課、福祉課の4課です。順次、市民課から自己紹介のほうをさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

1. 市民課

（ 職員の自己紹介、事務分掌一覧表に基づき説明 ）

・ 質疑なし

午前10時03分 休憩

午前10時04分 再開

2. 税務課

（ 職員の自己紹介、事務分掌一覧表に基づき説明 ）

・ 質疑なし

午前 10 時 06 分 休憩

午前 10 時 07 分 再開

3. 環境課

- (職員の自己紹介、事務分掌一覧表に基づき説明)
- ・質疑なし

午前 10 時 14 分 休憩

午前 10 時 15 分 再開

4. 部落差別解消推進・人権啓発課

- (職員の自己紹介、事務分掌一覧表に基づき説明)
- ・質疑なし

午前 10 時 19 分 休憩

午前 10 時 19 分 再開

5. 保険健康課

- (職員の自己紹介、事務分掌一覧表に基づき説明)
- ・質疑なし

午前 10 時 23 分 休憩

午前 10 時 24 分 再開

6. 高齢者支援課

- (職員の自己紹介、事務分掌一覧表に基づき説明)
- ・質疑なし

午前 10 時 28 分 休憩

午前 10 時 29 分 再開

7. こども子育て課

(職員の自己紹介、事務分掌一覧表に基づき説明)

○委員長(安東鉄男)

何かお聞きしたいことはございますか。

○委員(戸匹映二)

1 点お伺いします。この前のコロナが発生したときに、コロナ対応を全部こども子育て課がやったという経緯があるんですけど、今後も何かそういう感染症とかが広がった場合、やっぱりこども子育て課の対応になるのでしょうか。

◎こども子育て課長(麻生幸誠)

戸匹委員のご質問にお答えします。ご指摘のとおりコロナ時は、急遽、感染対応が必要ということで、それまで予防接種等を行っていたという面からこども子育て課で対応したという経緯がありますが、その教訓を踏まえて、今後は保険健康課のほうでされるものと考えております。以上です。

○委員長(安東鉄男)

いいですか。よろしいでしょうか。

(な し)

これで、こども子育て課所管分を終わります。お疲れさまでした。休憩いたします。

午前10時34分 休憩

午前10時35分 再開

8. 福祉課

(職員の自己紹介、事務分掌一覧表に基づき説明)

・質疑なし

午前10時39分 休憩

午前10時40分 再開

9. 教育総務課

(職員の自己紹介、事務分掌一覧表に基づき説明)

・質疑なし

午前１０時４３分 休憩

午前１０時４３分 再開

１０．学校教育課

- （ 職員の自己紹介、事務分掌一覧表に基づき説明 ）
- ・質疑なし

午前１０時４７分 休憩

午前１０時４８分 再開

１１．社会教育課

- （ 職員の自己紹介、事務分掌一覧表に基づき説明 ）
- ・質疑なし

午前１０時５２分 休憩

午前１０時５３分 再開

１２．文化・文化財課

- （ 職員の自己紹介、事務分掌一覧表に基づき説明 ）
- ・質疑なし

以上で各課自己紹介事務分掌の説明を終わります。ここで１０分の休憩をいたします。

午前１０時５６分 休憩

午前１１時１０分 再開

○委員長（安東鉄男）

再開します。以前にお知らせしていたとおり政策テーマについて議題といたします。

教育民生委員会として今後２年間何をテーマに政策研究活動を行っていくかでございます。
事務局にまず説明を求めます。

◎書記（工藤真里子）

（ 配付資料に基づき説明 ）

○委員長（安東鉄男）

選定したテーマに沿って、教育民生委員会の活動を進めていくことになります。研究活動を進める上で先進地への行政視察も活用したいと思います。本日中にテーマを選定したいと思います。

実は私と甲斐副議長が令和4年、5年、直前の2年間は平川副委員長が委員をされていたので補足させていただきます。

ユネスコ食文化について山形県鶴岡市に出向きました。給食センターを視察して、日本で1番早い給食だったと。寺子屋が最初の教育機関で、そこでお寺で出していたものから発展して、今日に至っているということでした。

埼玉県白岡市は郷土文化、集落ごとの文化をどうして継承するかということでございました。

それから常陸太田市ではICT、特に電子黒板を入れる直前だったので、この電子黒板と適正配置の統合もやったばかりでその件について、現地の学校教育委員会の方々と意見交換、情報交換をさせていただきました。

それから岡山県の奈義町は全国でも出生率が最も高い奇跡の町と言われているところで、合計特殊出生率はたしか2.2ぐらいあったということで、視察に行きました。印象的には、町、ご近所の支援とか厚くて、安心して子供が産めるということで、1人当たり3人から5人出産するという方が多いということで、住宅とかも充実しておりました。それからスクールバスの混乗利用、議会の質問でも出されたんですけど、兵庫県養父町というところなんですが、ここはうまくいっているというのは、通勤者が駅に集まるんですけど、中学校とか学校がその近くで、方向が一緒に放射状にその場所に朝集まってくると。臼杵に置き換えた場合、野津あり、南津留あり、北中ありということで、あっちこっち通学しなければいけない。それに、一般の方を乗せるのはちょっとマッチしないかなという印象が持たれました。これはちょっと、現地視察に行ってこれは厳しいかなあということで。

○副委員長（平川幸司）

令和6年、7年に行った中の、ワンフロアにまとまる市民窓口、愛知県常滑市に行ったんですが、市民が市役所に来て、あちこちの窓口を回っていくのではなくて、1か所に行ったら全て終わるような、これは、市役所の建物が割と新しくできているんですけど、それに沿って、こういうことをみんなで考えてつくったというようなことでした。

そして学校の編成については、岐阜県北方町。これは一貫校が小中ではなくて、0歳から15歳まで全部同じところに。廊下を歩いていくと、0歳、1歳、2歳、小学校、中学校となっている。視察のときも、小学校と中学校と一緒に運動会の練習をしていました。

臼杵市にどうかというのは、要は面積の問題。北方町は割と狭くて、町内を2つに分けて、再編していました。

令和7年の高齢者支援の取組は群馬県安中市、フレイル、要介護の状態になる前のフレイル状態について、なるべく介護状態にならないように取組をしようということで、民間の会社と一緒に、電気使用量が上がっていなかったら、じっとしているので動いてない、大丈夫だろうかとか、動いているので普段どおり生活ができるのかなとか、そういうことを見れるような、そういうシステムを入れていました。

中学校部活動の地域移行は長野県千曲市、これは町と市と一緒に一つの地域クラブを作っていました。市長部局と教育委員会、市を挙げて一つの総合型地域クラブみたいなものをつくって、進んでいました。そこは、元校長で教育委員会に出向してきたというコーディネーターの方が中心となって、どんどん巻き込んで進めたという、ここは他にない地域クラブの移行だなという感じはしました。

○委員（意見）

- ・白杵市は幼児教育から学校教育、すごく豊かな環境なのかなと感じている。幼児教育は、特にちあぼーとを中心にすごく取り組んでいるし、学校教育に関しても安東教育長の下に一貫した教育が受けられて、大きな問題はないのかなと思う。今後、小中一貫校の設置、また西中学校、市浜小学校の建て替え問題等があるので、これからの学校の在り方というところに保護者はすごく関心を持っている。今日の学校教育課の説明にあったとおり未来の学校デザイン室というものが新しく設立されたのと併せて、これからの学校教育の在り方をもう一度学び直して提言していくということも必要と考える。

- ・保護者目線で見たときに、学校現場だけでは解決できないことがすごく増えているなというふうに感じている。部活動もそうだし学校教育に関しても、もっと地域と連携して取り組んでいく。こういうことが進んでいくと、学校教育がより豊かになると思っている。

白杵市においては、企業とタイアップとかそういう先進的なことをするというよりは、地域ともっと連携して、先日スクールバスの混乗の話も、もっと地域と顔を合わせれば保護者の理解も得られるのかなとか、これから子供たちの総合的な学びをすることにおいて、学校の先生だけではなく地域の方から学ぶことも大事なと思うし、小学校がなくなった時に、子供たちが地域に足を運んで学べる環境があるというのは、地域の方にとっても触れ合う機会になるかなと思うので、これからそういう未来に向けて白杵市独自の魅力の詰まった学校教育というのを何か学んでいけたらなと思っている。

- ・教育民生は内容が多岐に渡るので、どこに焦点を置いてというのは非常に難しい。一つは学校の統合、これからの学校の在り方検討というところもあるが、まずは統合校を地元を持っているところというのは、スムーズに着地をしてほしいということが一つと、跡地活用というのがすごく大切なこと。そういうところに焦点を当てて、どういう着地ができる、どういう着地をしてほしい、あるいは跡地をどういう活用をしてほしいというところの動きがここ2年間は必要じゃないかなというふうに思った。

- ・認知症サポーター養成講座に行った。本当に我々の年齢に当てはまることが多くて、全体的

に見たときに臼杵に住んで健やかに生涯を過ごしたいというのがみんなの願いだと思う。そういう意味で健やかに生涯を過ごすということに焦点を当てて、どの年代層には何が必要で、あるいはどういうことを進めていったらよくて、特に認知症に関わる年代になったときには、サポート体制なんかも含めて、どういうふうなことをすることによって、本人が、臼杵で健やかに穏やかに過ごすことができたということになるかという事業というのをしっかり押さえていく必要があるんじゃないかなというふうに思う。機会があれば、今回ではなくてもぜひ取り組んでほしい課題の一つだというふうに思う。

- ・教育関係では、全国的に不登校というのが増えている。臼杵にきずなとかフリースクールもあるが、今、大分県内ではフリースクールの費用に対する補助というのが別府市と日田市がやっているが、ほかは何も今はやっていない。臼杵市の現状がどうなのかというのもちょっとまだよく分からないが、結構高い。フリースクールの費用が月1万円。

フリースクールも行きたくて行ってるんじゃないくて、いろんな理由で登校できない方が、やむを得ず行っているという状況もあるようなので、そういう人たちへの支援策が必要なのかどうかというのは、調査研究が要るのではないかと考えている。非常にナイーブなテーマですが。

- ・高齢者の支援に関しては、高齢化も進んでいて、ひとり暮らしの高齢者というのがどんどん増えている。ごみ出しの支援等を行っている自治体があるので、そういうところの支援策を研究したほうがいいのかと考えている。

- ・フリースクールの問題も気になっていた。今、現況は正確に捉えているか分からないが、教育委員会的には、言葉は乱暴かもしれんけど、フリースクールの存在は余り認めたがらないというか。ただこんな時代になって、そもそも学校に行かなくていいんじゃないかというような、制度の流れも出てきているので、そこは柔軟に考えて、支援の在り方も本格的に考える必要があるのではないかと考えている。

- ・高齢化は避けて通れなくても、クオリティー・オブ・ライフ、高齢者の質の向上は、我々の提言で改善できると思う。高齢者が住みなれた地域で暮らし続けるための研究というかそこをテーマにしたらいんじゃないかと思っている。政策テーマの提言に至った今現状の課題なんですけども、皆さんご承知のとおり、独居老人の問題、先般私も議会で質問しましたが、ごみ出しの問題とかが地域で非常に問題になっている。

- ・高齢者の生活のクオリティーを上げるために今問題となってるのが移動手段。

- ・深掘りしていいかどうか分からんけど、包括支援センターというのがあって、いわゆる介護保険に至らないまでの方々、要支援の方々を中心に支援をしていくというシステムなんだけど、本当に現場の声が届いてるかどうか。地域包括支援システム、本当に名の通りのシステムになっているのか、ちょっと心配なところ。全国の事例を研究しながら、その前段として携わる現場の包括支援センターの職員のみならず、介護事業所の職員とか、そういった方々の意見を聞きながら、高齢者が住みなれた地域で暮らし続けるにはどうしたらいいかという、単に高齢者のみではなくて、若い方々に向けて臼杵なら生涯を通して質の高い生活を送ることができる

んだという意味からも、この高齢者の課題に取り組むことはいいことかなと思っている。

・臼杵市は、高齢者施策に頑張っていると思うが、移動手段は公共交通のほうとか、組織横断的に取り組むことができないかの提案も先進地を見ながらできたらいいかと思う。

・社会福祉協議会の取組について、市が委託してやっているが、今後、高齢者とかいろんな困ってる人、例えばごみ屋敷の問題とか、いろいろある。それに対応するところが、社協とか福祉が連携してやっていて、それを専門的にやる人材が、社協の中には社会福祉士とかソーシャルワーカーがいるが、以前よりもその人たちの人数が減っているということもあるし、これからそういう相談支援体制は、外に出てアウトリーチでやらなければいけない機会というのは増えてくると思うが、社協や福祉を絡めた、そういう機能の充実というのが必要じゃないかなと思っている。難しいが、そういうところを調査していきたいなとは思っている。

・子育てについては、臼杵市はちあぽーとを中心に充実している。また環境も、大分広域の環境センターとかも、1,000億円超す事業があるが、これはもう線路を引かれている状態なので、研究テーマにはどうかということで、やっぱり学校。先ほど出たように適正配置、跡地利用、小中一貫校、これは大きな問題がある。

・先ほど委員からありましたように、不登校の通いづらい人たちがどんどん増えている。どれくらいいるかは分からないが、大分県全体では調べたりはできる。そういった人が安心して通える所が必要ではないか。市がしているきずな、港町の1つ民間でしている。実費を払ってやっているような結構大変な状況がある。玖珠町に特別な教育を受ける小中一貫校が令和6年に開校して、私も見に行ったが、本当に子供たちが生き生きしていた。

・福祉のほうの放課後児童デイサービスについて、支援が必要な人たちが通えない。大分市に通っている。今ちょっとずつ放デイが増えてはいるが、それは県の事業なので、臼杵市の支援としてはサポートになるが、その辺の教育と福祉の狭間というのか、そういったところを研究をしたらいんじゃないかと思っている。

・これは余談になるかもしれないが、ペットと一緒に入れる高齢者施設というのが、なかなかない。臼杵に作ったら全国から来るんじゃないか、移住定住にもつながるのではないかと壮大な考えはあるが、全く先立つものはない。

・部活の地域展開、1番気になるテーマであったが、引き続いてやるかどうか。12年、13年にはしなければいけないというところで、保護者にとっては、送迎とか経済的に大変負担がかかっているということを、昨今聞く。指導者にとっても、今まで部活は学校教育、勤務の中でやれていたもので、教員の負担はもちろんあるが、補償問題がある。自分がけがをしたとき、あるいは生徒がけがをした、例えば重大事故、頭部外傷で車椅子になった、すごい補償しなければならないと、そういったときの保険とか補償、公認資格を持たないと当然やっちゃいけないと思う。そうした場合、公認資格を持つのに講習料、登録料、保険料というのがあると思う。それから、教員の場合の部活は、勤務時間内で勤務として無償でやる場合もあるけども、手当も出ると聞いている。夜の時間毎日、土日毎週出て無償でいいのかという問題もあろうかと思

う。そういったところを先進地でしっかりやっているところも勉強したいなというところがある。

・適正配置はいよいよ最終段階に入っている。特に野津は、形をいよいよつくらなければいけない段階になっていて、スケジュールでいくと来春、小学校が全部統合して、もうその3年後ぐらいには、野津中学校に大体もう集約すると。何で時間差があるかというと、今の中学校に空き教室ができて、小学校全部収められるということで、敷地も広大だし、そういった環境で、教育委員会への質問では小中一貫を検討する、実質もそういうたてつけなんですけど、それを義務教育学校と小中一貫校でどちらが機能的にいいのかとか、そういった学校教育に関すること、部活と適正配置で新しい学校スタイルを勉強できればと。あとプールの問題あります。小規模校1校1校プールをつくるわけにもいかない。民間にお願いするのちょっと限界があるかもしれない。どっかに集約するとか。

・給食センターはそろそろ更新しなければいけないというところで、どういった給食センターか。全市で1番真ん中ぐらい、それから防災の避難所に近いところ、防災ともリンクできるような給食センターだとか、これから皆さんの知恵を借りながらということになるが。

○委員長（安東鉄男）

教育関係では給食、プール、適正配置、部活動というような形。

もう一つ、具体的にフリースクールなどは、教育になるか民生部門かどうか。

それから、フレイルの問題、フレイル予防が健康寿命の延伸に直結するというか、本市も進んでいるとは思いますが、その辺の勉強。社協とかの在り方とか、その辺もちょっと充実させていく必要があるのかなと。

大体出揃ったと思いますので、この中からだんだん煮詰めていければと思います。

○委員（意見）

・学校の跡地利用に関連して、当局に当たっていることがあって、武道館を今、東中の隣、44、5年たっている。もう雨漏りも10年以上前からして、老朽化しています。空調設備もない。大分の県立武道センターは当初、武道推進協議会みたいなものを柔道剣道相撲とかそういった方々が立ち上げて進めてたら、ほかの球技も入ってきて。また、情報科学高校と隣接しているので、防災機能も備えて、合わせて2,000人ぐらい収容できるような形を、被災時には救護エリアで計画もきちっと最初から盛り込まれている。なので豊後大野市も最初武道館でやろうということだったんですけど、球技もできるようなもので、被災して数日か何週間か分からないが過ごすのに、冷暖房、トイレ設備も新しいものじゃないと、武道に限らず多目的に使える屋内運動場、観覧席まで備えたものがあれば。

例えば、商業高校の跡地につくれば、備蓄倉庫があるんで、食料品、備品やおむつから用品まで、それから消防も近い。建設課もすぐそこにあるんで非常に優れているんじゃないかなと。社会教育課の職員の方からは、諏訪山の敷地が結構空いている、その辺もいいんじゃないかなと。

かというお話をいただいている、進められるものなら進めたいというところはある。

- ・小学校の校舎の跡地利用についてみたいなテーマがあってくのが一つと柔剣道場がその中の一つの案として入ってくるだろうが、今の総合的な話でいくと校舎の跡地利用についてのテーマと市の土地の有効活用について、みたいなテーマになってくると思う。その中に柔剣道場にするのか、他の施設にするのか、それは総合的に考えていけばいいかと。

- ・防災も兼ねてるので、総務と両方、どっちがいいのかというやり取りもしないと悪いのでは。

- ・道の駅のイメージはちょっと現実には難しいと思うけど、スポーツ施設をつくって、道の駅を上手く組み合わせて、例えば、観光とかは一回来たら何年かは来ないけど、スポーツ施設は同じスポーツが毎年くる。道の駅もその流れの中に入れてもらおうと案外、安定的に運営できるかなと思ったりした。総合的に考えていって、全部を求めるとみんなが駄目になってしまうので、そこは整理しながら。

- ・学校施設にも隣接していると部活動がしやすいなというのもあるので、欲を言うといろんな施設が徒歩でも行けるような距離であれば、指導の確保もできると思うので総合的に見ていただけたらと思う。子供たちの教育環境も含めて。諏訪山となると遠いので、コンパクトシティを目指すのであれば、市浜、西中のところにどれくらいの土地が確保できるかわからないが、家野になると若干遠くを感じる部分があるので、20年、30年先を考えた時に人口減少であるところになっていくんだらうと今の豊後大野市とかをみていて思う。そうなった時にそこも含めて、場所を考えていただけたら非常にありがたいと思う。

◎書記（工藤真里子）

学校の跡地利用がテーマになったときに、学校跡地が教育委員会の所管のままなのか、公有財産となると教育民生委員会の所管を外れてしまう懸念があります。教育的な使い方とか、その辺りを含めてご検討いただければと思います。

○委員（意見）

- ・ほとんどの議員から出た、高齢者に対する健やかなというところは、テーマとしていいのかな。教育が大きいから2つテーマをおけるのであれば、1つは高齢者に対する福祉のありかたをテーマにして。

- ・テーマを1つに絞らないといけないとしたら、高齢者に限らず、住み慣れた地域で暮らし続ける地域づくりとして、その中の中項目に高齢者とフリースクール。そういう整理の仕方もある。

- ・部活は前年度しているの、まだ令和13年度までまだ期間はあるし、あまり提言するというよりは、市民レベルの活動を進めていったほうがいいかなと思うので、違うところに取り組んでもいいかなと思います。それよりは、統廃合の跡地の利活用や、統廃合、フリースクール、そっちのほうが確かに増えてるなというのは、保護者から聞く。

- ・フリースクールについて、先進的に補助とかに取り組んでる地域があれば。

- ・個人的には、きずなはすばらしいと思うが、おっしゃるように、きずなの居心地がよくて、

きずなに行こうとする子も増えるのではないかと思うくらい環境は恵まれているので、素晴らしいなと。フリースクール自体どれくらい需要があるかわからないが、不登校の子は増えているのは間違いない。

- ・過去に発達障害が増えてきたときぐらいに、委員会で視察、実際の教育現場まで視察に行ったことがある。支援員さんが少なかったので、支援員さんを増やしてくれという提言はさせてもらった。

- ・保護者の相談は、いじめとか人間関係の悩みは多くて、陥った時に初めて情報を集め始めるので、学校でアナウンスしてる時は知らないことが多いから、教育格差は広がる一方なので、議会としてその部分をしっかり見ていくのは大事な事かなと思う。

協議結果

政策テーマ

- ・住みなれた地域で安心して暮らし続けるために
- ・子どもたちが安心して学べる居場所づくり-不登校の現状と対策について-

○委員長（安東鉄男）

政策テーマが決まりました。1つ目、住みなれた地域で安心して暮らし続けるために、2つ目は子供たちが安心して学べる居場所づくり、ということで細かいところは黒字で記載しております。

皆さん満足いけたら拍手で。

（拍手）

では、全会一致で決まりました。

それでは、閉会中継続審査の申出についてを議題といたします。事務局より説明をお願いいたします。

◎書記（工藤真里子）

（資料に基づき説明）

○委員長（安東鉄男）

ただいま事務局より説明ありました。閉会中継続審査の申出について、説明のとおり、会議規則第111条による閉会中の継続審査の申出を議長に提出することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声）

○委員長（安東鉄男）

異議なしと認めます。よって、閉会中継続審査の申出について、議長に提出したいと思います。

次に、その他について、事務局お願いします。

◎書記（工藤真里子）

(次回の開催内容、日程について確認)

○委員長(安東鉄男)

次回は、6月29日、諸会議終了後に行いたいと思います。

ほかにございませんか。では、これをもちまして教育民生委員会を閉会いたします。

午後12時37分 閉会

白杵市議会委員会条例第30条第1項の規定により、ここに記録を作成する。

令和8年6月26日

白杵市議会

教育民生委員会委員長 安東 鉄男